

FILE

26 インキュベーターの掃除

研究グループでは長期休みがある場合、インキュベーター(培養器)の掃除を行います。インキュベーターは体外受精卵を育てるいわば「お母さんのおなか」。とーってもキレイに保つ必要があります(・ω・)b

部品の取り外し、洗浄、組み立てを行い作業は終了です。

2人で作業して1時間くらいでしょうか。採卵後の疲れた体には堪えますo(;△ ;)o

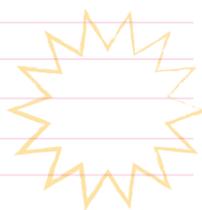
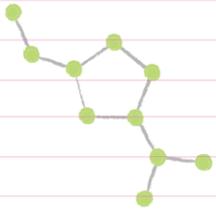
キレイになったので大満足!

残り2台も近日中に掃除します(^o^)/

頻りに掃除を行いたいのですが、体外受精卵の培養期間は8日間くらいと長いため、インキュベーターが空いている長期休み前が掃除の狙い目です!

そしてこの掃除、なかなか大変なため気が重たいのです。

大型インキュベーター(150cmくらいの人なら入れるサイズです)が3台あるため培養のスケジュールと被らないように順番に掃除していきます。



FILE

27 北海道のゴールデンウィーク

今年のゴールデンウィークは暑くなったとニュースなどで聞くこともありましたが、ET研究所のある十勝地方は連休初日の4月29日朝、家の外がこんな状態で驚きましたw(;´)w

この時期に北海道に旅行に来られた方は、さぞ驚いたことでしょう。

そんなこんなありまして、ゴールデンウィーク終盤ようやくタイヤ交換を実施!

北海道に来てまだ2年目の私ですが、皆さんが口を揃えている「ゴールデンウィーク明けまでタイヤ交換しないほうがいい」を、身にしてみても実感しました(。ω。)

雪が積もってるではありませんか?!

近くの峠を通る予定だったので車を走らせてみましたが、吹雪で後悔することに(TmT)

峠の中腹は穏やかでしたが、このあと山頂に近づくとつれて雪が強くなり……。展望台で写真を撮ってる場合ではありません(笑)。

4月29日朝
家の外にて



ET研の「いま」が分かる「全農ET研ブログ」はコチラ▶▶ <http://etken-blog.lekumo.biz/et/>

※編集の都合上、ブログと表記や写真等が異なる場合がございます



ET技術を活用して、優良和牛素牛、優良和牛繁殖牛の増産や、乳牛の後継牛確保・改良の研究を行う「JA全農ET研究所(ET研)」。そのET研が発信しているブログから、皆さまに役立つ情報を紹介していきます!



FILE

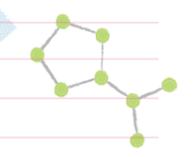
24 牛はキレイ好き?

今朝、事務所近くの牛舎をのぞいてみると牛がまったく見えません(・_・?)あれと思って近づいていくとみんな奥のほうにギッシリ集まっておりました。何かあるのかな?と思いましたが、原因はすぐに分かりました。簡単ですね。牛床が奥側はキレイだったのです。昨日、掃除をしたのでしよう(片側だけ)。誰も汚れた床では寝たくありませんからね。



……にしても、ぎゅうぎゅうにもかかわらずみんな奥側に集まるなんて。牛さんもキレイ好きなのでしょう。

と同時に、汚れた牛床が牛には大きなストレスのように感じました。冬場は特に体が冷えて生産性を損ねるともいわれますので、小まめな掃除や休憩スペースの設置も考えていきたいですね。



FILE

25 植氷

タイトルの漢字、読めるでしょうか!? 「しょくひょう」と読みます。採卵、検卵、品質チェックが終わった受精卵たち。これらはここから凍結の工程に入ります。

更に凍結液の水分が凍る→凍結液の浸透圧が上がる→受精卵の水分が抜ける……。最後には凍る!

受精卵は凍結液とともにストローに入れられ、封入されます。このストローを凍結機に入れ、植氷します。

こうやって受精卵細胞から水分を抜いて凍結することで、水が凍って細胞を傷害する(水は凍るとトゲトゲしているのです)ことが低減されるのです。

植氷とは受精卵がゆっくり凍るのをアシストする作業です。植氷により受精卵の入っている凍結液の水分が凍り、だんだん凍結液の浸透圧が上がります。そうすると凍結液に水分を奪われるため、受精卵の水分が抜け……。

この工程からも、ゆっくり凍らせることがとても重要ということが分かると思います!

実際の作業は液体窒素につけたピンセットで植氷筒をつまみます。やさしく触れるようにつまむことでゆっくり凍っていきます。



植氷した箇所から少しずつ白く凍っていきます(黄色矢印)



凍結液の水分が凍る→凍結液の浸透圧が上がる→受精卵の水分が抜ける……。